

瀋陽駐在員事務所

最近のニュースから

日本のメディアでは、アメリカ大統領選挙の結果やトランプ氏の政策方針について日々相当な量の報道がされているようですが、一方こちら中国では選挙結果についての扱いは日本ほど大きくはなく、内容も台湾総統との電話会見までは比較的冷静なものが多かったように思います。

逆に、日本で扱いがさほど大きくないにもかかわらず、日本絡みで中国では大きく且つ感情的とも思える内容で報道されているのが次の2つです。

欧米や日本が中国の WTO における「市場経済国」としての認定を行わなかったこと。

日本が、中国を「特惠関税対象国」から除外したこと。

「人民日報日本語版抜粋」

【記者】中国の WTO 加盟から今年で 15 年になるが、一部の西側国は、中国は市場経済国ではないとし、中国側はこれについて訴訟を起こした。これについてコメントは。

【耿報道官】いわゆる「市場経済国」と「中国の WTO 加盟議定書」第 15 条という国際的義務の履行は異なる概念だ。一部の者は両者を混淆することで、自らの責任を逃れようとしている。

良し悪しについての論評は控えますが、こうした感情も入り混じった事象が発生すると、突然税関で商品検査を受けられなくなったりするケースが過去、幾たびも発生しています。今回の件がこうした事象の引き金にならない方がいいが、と密かに心配しております。

南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【おいしい北海道】

プーチン大統領の訪日は日本でも大いに盛り上がったことと思いますが、当地サハリンでも大いに盛り上げるイベントが開催されました。今回はそのご紹介をいたします。

12月17(土)から30(金)まで「おいしい北海道」集中キャンペーンと題しまして、北海道の食の魅力をPRする様々なイベントが展開されました。主催は北海道庁です。

サハリンでは、旭川市を中心とした道北9市による物産展が例年秋に開催されています。今回の物産展も同じ会場(シティモール)で開催され、地元ロシアの人々にもかなり浸透してきました。初日の朝一番に果物などを箱買いしていく人、最終の終わり間際に値引きを狙ってくる人、等々。また、今回は物産展終了後、地元の方に北海道食材のアンテナコーナーが設置され、3月まで継続販売される予定とのことです。これらの商品は稚内港からコルサコフ港へのチャーター船で運ばれ、輸出・通関手続き等も大きな問題なくなされたと聞いています。関係者の方々のこれまでの一步一步の蓄積が徐々に実り始めているのを実感します。

【「おいしい北海道」集中キャンペーン】

	キャンペーン	期間	場所・内容
1	北海道フェア	12月17(土)～18(日)	(大型ショッピングセンター) 北海道食品の試食・販売
2	レストランフェア	12月17(土)～30(金)	(日本食レストラン) 北海道食材を使ったメニュー
3	北海道コーナー	12月19(月)～ (3月まで継続)	(地元スーパーマーケット) 北海道食材のアンテナコーナー設置



達田 暢

ウラジオストク駐在員事務所

サハ共和国初の野菜栽培温室について

12月7日、ロシア極東北部にあるサハ共和国の首都ヤクーツク市で、野菜栽培温室施設の竣工式が行われました。このプロジェクトは当行も協力しており、ヤクーツク市とサハ共和国を中心とした日露共同事業です。



サハ共和国は永久凍土に覆われていますが、北極圏に近いヤクーツク市の真夏の平均気温は35度以上であり、年間の寒暖差は80度を越えることも珍しくありません。そのため、地面はかなり不安定で、建物や建造物の基礎工事等に在来工法を採用するのは難しく、これまでの営業用温室建設の試みはいずれも試験段階で終わりました。その結果、サハ共和国は野菜自給率が十数パーセントに過ぎず、主に中国からの調達に依存せざるを得ないのが現状です。



しかし、道内企業が長年に渡って開発してきた寒冷地技術を現地の環境に適応させて活用すれば、上記の技術的なハードルを乗り越え、プロジェクトの事業化を実現できる可能性が高くなります。この温室施設の建設には道内企業も深く関与しているので、今後の展開から目が離せません。

イワン・モズゴヴォイ

北陸銀行バンコク駐在員事務所

「タイ人の心をくすぐるラーメン店とは!？」

北海道では本格的な冬を迎え、多くのタイ人観光客が北海道に来る時期がやって来ました。タイ人が北海道でやりたい事の1つに「ラーメンを食べたい」というものがあります。今回は、私がタイのラーメン店で感じた日本との違いを2点紹介したいと思います。



タイ料理店に常備されている
ナンプラー・唐辛子・酢・砂糖

1点目は、タイ人はオーダーメイドの味付けをしたいという事です。タイでラーメンといえば、米粉の麺の「クイッティアオ」や小麦粉の麺の「パミー」があります。これらのお店ではナンプラー・唐辛子・酢・砂糖が用意されており、お客さんはそれぞれの好みで味付けをしています。日本人は「出されたものをそのまま食べるのが一番美味しい」という考え方がありますが、タイ人は「自分で味付けを調整したい」と考えている様です。驚いた事に、日本から進出した豚骨ラーメンのある有名店では、豚骨ラーメンと一緒に出し汁が入ったポットを提供し、テーブルで味付けが調整出来る様にしています。

2点目は、タイの1人前は日本のハーフサイズくらいという事です。タイ人は古くから間食の習慣があり「細かく、何食も」食べるそうです。事務所のタイ人スタッフによると「北海道に旅行に行ったとき昼にラーメンを食べたが、量が多くて夜もあまり食べられなかった。ハーフサイズがあると色々なお店で食べられるので嬉しい。」との話でした。

吉田 雄司

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

映画「君の名は。」を中国で鑑賞

日本国内で爆発的ヒットのアニメ映画「君の名は。」が12月2日、ついに中国で公開されました。興行収入は17日の時点で5億3,300万元（90億円）を超え、およそ2週間でこれまでに中国で公開された日本映画の最高記録を更新しました。

中国・北京では映画館の場所や設備などによりチケットの価格が2倍以上変動することはざらで、購入経路も複数存在するため価格がまちまちです。私は比較的価格の高い映画館の公式APPでチケットを購入し、65元（1,100円）でした。オンライン化は日本より進んでおり、チケットのほか飲食物の購入も事前にスマホで決済し当日は受け取るだけです。館内の設備などに関しては日本の映画館と大差なく、快適に映画を鑑賞することができます。

何より印象深かったのは、日本の映画館で本編の直前に必ず上映される「NO MORE 映画泥棒」やマナー喚起のCMがなかったことです。当然、上映前に携帯電話の電源を切るもしくはマナーモードにする習慣はなく、スマホでムービーや写真を撮る人さえいます。少々騒がしいのは事実ですが、海外の映画館で日本語（中国語字幕付）の映画を鑑賞できるのは嬉しい限りです。

小笠原 宅麻



北海道 ASEAN 事務所(シンガポール)

「シンガポールが北海道1色に」

11月17日から27日にかけてシンガポール国内では、ポートセールスや商談会、物産展などの北海道のプロモーションイベントが同時に開催されました。今回はそのフェアの一部を紹介したいと思います。

「苫小牧港セミナー」

現地の港湾や日系企業の関係者など約120名が参加しました。会場では苫小牧港の立地や特長に関する紹介が行われたほか、北海道の銘菓の試食コーナーも設けられ、来場者の関心を集めていました。



「苫小牧港セミナー」
道内銘菓試食風景

「北海道プレミアム食材商談会」

シンガポールの食品卸や飲食店関係者を中心に約200名が参加しました。北海道から招聘したシェフが、出展した生産者の魚介類や牛肉、野菜などの食材をイタリア料理に仕立てて提供するというものであり、食材活用する方法も知ることができるとあって、多くの参加者の注目を集め、商談も賑わいを見せていました。



「プレミアム食材商談会」
商談風景

「Hello! Hokkaido」

シンガポールのリゾート施設で開催されたもので、シンガポール人は勿論、アジアを中心とした世界各国からの観光客もフェアに訪れました。北海道から出展した飲食店の屋台の他、木工品や北海道産原料を使ったコスメなど幅広い商品が出展され、賑わいを見せていました。

各フェアの賑わいを見ると、改めて食料品を始めとした北海道のブランド力に気付かされます。当事務所では、引き続きシンガポールを始めとした東南アジア諸国に向けて北海道の魅力発信を継続していきます。



「Hello! Hokkaido」
ブース風景

本間 俊也